

発行元  
東京新聞  
南千住東口専売所  
TEL5850-3699  
発行責任者  
鬼塚 佳代子  
TEL090-2657-0300

# すまいるたん



汐入

第149号

平成22年

7月23日



ジョイフル三ノ輪商店街の「ナガオカ」の五十嵐春雄さん（大正14〜平成19）の遺稿集「三ノ輪界わい名跡散歩」平成五年十二月より

浄閑寺のはす前に現在廃業してしまつたが、下駄の型をした大きな看板の「にんべん屋」という下駄屋さんがあつた。ここがあつた有名なアラキー事、激写スロド写真家荒木経惟氏の生家である。浄閑寺を語るには吉原を十想うのだが地域外なので省略させて戴くが、私の思い出を少し書かせていただく。

昭和十年、十一年頃、母から二ヶ月に一回位二十銭位を貰つて浅草松屋の八階にスポーツランドがあり、そこに行くのが楽しみであつた。大関横丁よりバスに乗り、地方橋を経由して松屋前で降りるのであるが、バス代が当時子供片道五銭往復九銭位だったと記憶しているが、バス代がもつたいたないので松屋まで友と語らい乍ら歩くのである。

エレベーターはジャバラのついたもので八階に着くとそこは子供の別天地である。電気自動車・小規模なメリーゴーランド・コリント・ゲーム等沢山な遊び道具があつたと思うが思い出せない。浮か

したバス代で二時間位遊び帰りは 浅草寺境内に向う。遊びに行くのは日曜日の為か、そこには居合術・ガマの油売・バナナの叩き売等の大道芸人の集りがあり、屋台で買ったせんべい・大福等を食べながらそれらを見、裏手を通つて木馬館を右に見て少し行くと瓢箪池の左側に至る。この池の周りには柳が植えられて大変情緒ある趣のあつた所であつた。

終戦後は娯楽というものが大変少なくなつた。求めたものは映画であつた。浅草六区はその典型的な場所で大勝館・電機館・千代田館・金龍館等演劇では、エノケン・二村定一・ロッパ等の方々があつた。常盤座があり戦後すぐの混乱をいやす場所であつた。

私が一番始めに見た洋画は大勝館でシヤルル・ボワイエ、イングリット・バーグマン共演の「ガス灯」であつた。その当時の感動を今でも覚えていて。大勝館は外観はきれいだが、一歩中に入ると椅子は全部崩れ落ち、立つてスクリーンを食い入るように見たものである。

然し、瓢箪池が埋め立てられ、その跡にはビルが立ち並びその一部に現在JRAの場外馬券場になつてしまつた。池が埋められてからは、あゝ浅草の灯は消えたと感じて浅草から足が遠のくのである。之もテレビの普及、近代化への再開発が埋めざるを得なかつたのかも知れない。瓢箪池を右折し、千束に至る左側に遊女の性病を定期検診す

る吉原病院があり、その向いに赤い鳥居のある吉原池（花園池とも云う）があり現在は埋められてしまつた。

安政二年の大地震の新吉原は一廓すべて焼失し、余りの熱さに遊女等は吉原池に飛び込み溺死、又は焼死・圧死等をし、その人々の死体は浄閑寺の大きな墓穴の中に、誰彼の差別なく投げ込まれた。「投げ込み寺」の名はこの時からいつそう高まつたのである。

吉原池を過ぎて廓に入る。揚屋門はすでに扉はなく、それを支える黒い柱のみが残つていた。私の見た女郎屋は時代劇によく出てくる様に左に格子があり、そのうしろが畳になつていて夜になるとそこに遊女がはべるのであろう。

昔は和服で髪を結つて遊女のならば順が決まつておつたそうであるが、私の子供時代はどの様になつていたか知らない。右が土間になつていてその正面に遊女の写真が置いてある。中まで、のこのこ入つてきれいな姐ちゃんが、いっぱい居るなあと写真を見てみると、妓夫太郎であろうか「こら、こゝは餓鬼の来る所じやない出て行け」とどなられた。ほうほうのいで逃げませたガキである。昼の吉原は静かであつた。日本堤を通つて家路へと急ぐのである。

☆すまいるたんふれあい亭  
◇7月24日（土）午後1時〜3時  
社会福祉協議会3F（イトーヨーカドー前）  
キーボード・尺八の演奏で・歌声サロン